日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会（長崎大会）
第 2 次案内（最終案内）

第 32 回研究大会の第 2 次案内（最終案内）をお送りいたします。これまでご案内をさせていただきましたように、2026 年 10 月 17 日（土）～18 日（日）（16 日（金）は前日プログラム）に、日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会を長崎大学と鎮西学院大学との共同開催により、長崎大学文教キャンパス（長崎大学教育学部）で開催いたします。

大会テーマは「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」です。第 32 回研究大会では、長崎市立城山小学校「原爆学級」を取り上げる前日プログラム、準備委員会特別企画（長崎原爆の家族証言）、基調講演、課題研究シンポジウム、準備委員会企画シンポジウム、長崎特別支援教育分科会（6 分科会）、自由研究発表・若手チャレンジ研究会・ラウンドテーブル 42 件というように内容豊かな構成になっております。中学生・高校生・特別支援学校中学部・高等部生招待企画「Project for Next SNE Researcher」、懇親会も準備しております。

参加申し込みの締め切りは ~~10 月 9 日（金）~~ **10 月 15 日（木）正午**です。Peatix サイトより必ず事前にお申し込みください。多くの皆様のご参加を大会準備委員会・スタッフ一同お待ちしております。

2026 年 9 月 27 日
日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会準備委員会
大会準備委員長　鈴木保巳（長崎大学）



開催大学（長崎大学教育学部）からのご挨拶

このたび、日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会が、長崎大学文教キャンパスを会場として開催されますことを、開催大学の一員として、また教育学部を代表して心より歓迎申し上げます。全国各地より長崎の地にお集まりくださる会員の皆様、研究者・実践者の皆様、ならびに本大会の開催にご尽力くださいました関係各位に、厚く御礼申し上げます。

長崎大学教育学部は、教員養成を担う学部として、子ども一人ひとりの学びと育ちを支える教育のあり方を追究してまいりました。学校教育を取り巻く課題が多様化・複雑化する今日、障害の有無にかかわらず、すべての子どもが安心して学び、自らの可能性を伸ばしていくことのできる環境を整えることは、教育に携わる者に共通する重要な責務です。特別ニーズ教育に関する研究と実践の蓄積は、その責務を果たしていくうえで、きわめて大きな示唆を与えてくれるものと考えております。

本大会が開催される文教キャンパスは、日々、将来の教育を担う学生たちが学び、教育・研究に取り組む場です。

日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会のテーマは「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」です。このテーマは、被爆地・長崎において研究大会を開催することの意味を、きわめて深く示すものです。戦争や核の問題を過去の出来事としてのみ捉えるのではなく、平和をどのように学び、語り継ぎ、そして多様なニーズを有する子どもたちを含むすべての人々の尊厳ある生をいかに保障していくのかという問いは、特別ニーズ教育の根幹にもかかわるものと考えます。

長崎は、歴史の重みと国際性を併せ持つまちであると同時に、平和の尊さを世界に発信し続けてきた地でもあります。その長崎において、「戦争・核・平和」という人類的課題と特別ニーズ教育とを結びつけて考えることは、教育が果たすべき役割をあらためて見つめ直す貴重な機会となります。ご参加の皆様には、研究大会での学びと交流に加え、長崎のまちが有する歴史や文化、そして平和への願いにも触れていただき、本大会のテーマをそれぞれの研究と実践に引き寄せて深めていただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたりご尽力くださいました日本特別ニーズ教育学会、準備委員会、関係機関の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本大会が参加者の皆様にとりまして有意義な研究交流の場となりますことを祈念し、開催大学学部としてのご挨拶といたします。

長崎大学教育学部
副学部長　内野成美

大会日程

開催日

2026 年 10 月 17 日（土）・18 日（日） ※前日プログラム 10 月 16 日（金）

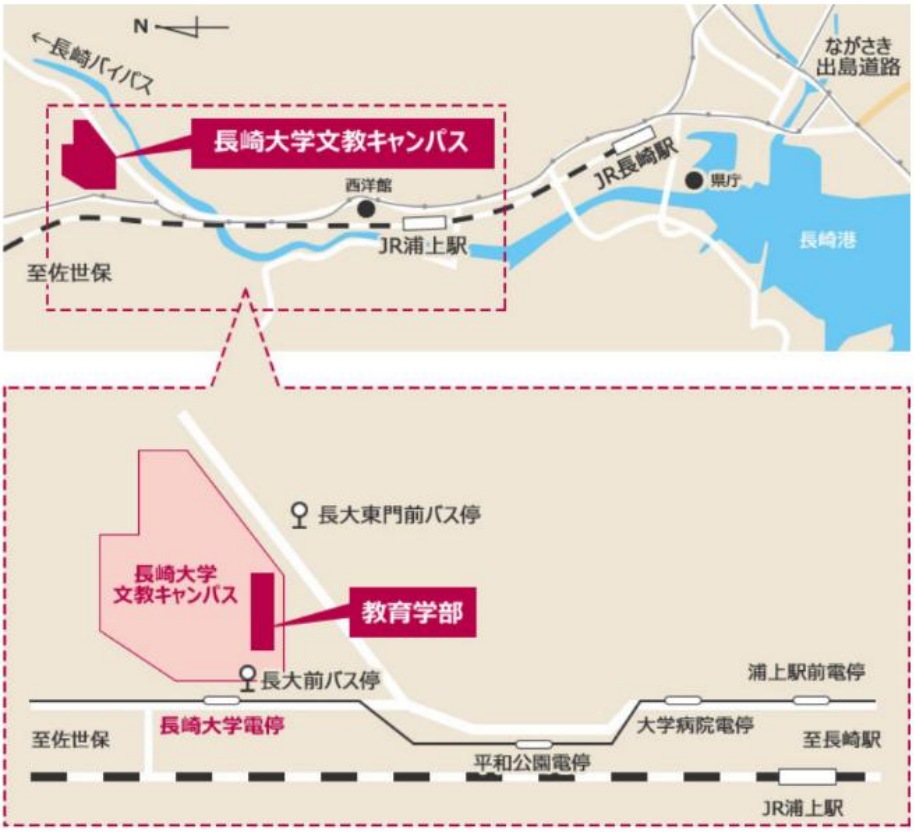
会 場

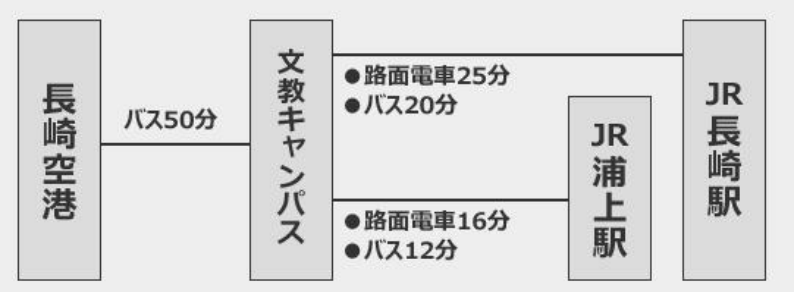
長崎大学教育学部 （長崎市文教町 1-14 長崎大学文教キャンパス）

＊構内の駐車スペースには限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。なお、自家用車は原則として 300 円の入構料金が必要となります。正門より入構し守衛室にて所定の手続きを行ってください。タクシーで来学された方は入構料が免除となりますので、そのまま入構できます。

【交通アクセス】

路面電車	・「長崎駅前」または「浦上駅前」から「赤迫」行きに乗って「長崎大学」下車、徒歩 1 分
長崎バス	・長崎バス「長崎駅前」または「浦上駅前」から 1 番系統に乗って「長崎大学前」下車、徒歩 1 分
長崎空港	・バス「長崎空港 4 番のりば」から長崎方面行き（昭和町・浦上経由）に乗って「長大東門前」下車、または長崎方面行き（住吉経由）に乗って「長崎大学前」下車、徒歩 1 分





大会テーマ：「戦争・核・平和」と特別ニーズ教育

現在も続くウクライナ戦争、ガザやイランの紛争・虐殺等に示されるように、「戦争・核・平和」問題への対応が喫緊の現代的課題になってきている。しかし、本学会ではこれまでに研究大会テーマとして「戦争・核・平和」問題を直接的に取り上げたことがない。それゆえに第 32 回研究大会では、子どもの「いのち・生活・学習・発達」を脅かす人類最大の危機でもある「戦争・核・平和」の問題に対して、特別ニーズ教育が取り組むべき課題を取り上げる。

タイムテーブル

日 時		内 容			場 所
10 月 16 日（金）	13:00-15:05	**【前日プログラム】** **長崎市立城山小学校「原爆学級」の記憶と平和への願いを世界と未来につなぐ集い―世界最初の被爆児救済教育は「被爆長崎の宝」―（於・長崎市立城山小学校）** 本大会のテーマ「『戦争・核・平和』問題と特別ニーズ教育」の一環として、1952 年に長崎市立城山小学校に設置された世界で最初の「原爆学級」を取り上げます。 原爆学級の歴史的意義・価値を学び、卒業生の語りと子どもたちとの対話を通して、その記憶と平和への願いを世界と未来へどう受け継ぐのかを考えます。			長崎市立城山小学校体育館
10 月 17 日（土）	8:30	受付開始			教育学部棟 1 階
	9:00	オープニング・セッション 準備委員長開会挨拶・教育学部副学部長挨拶			教育学部棟 11 番講義室
	9:15-11:45	**【自由研究発表Ⅰ】** **【若手チャレンジ研究会Ⅰ】** **【中学生・高校生・特別支援学校中学部・高等部生招待企画】** Project for Next SNE Researcher	**【ラウンドテーブルⅠ】** 子どもの「食」は発達する―食べることに悩みや不安を抱える子どもと家族、支援者のために―／髙橋智（東海学院大学）・田部絢子（日本大学）	**【準備委員会企画】** **長崎特別支援教育分科会**：①特別支援学校における不登校支援の現状と課題、②知的障害特別支援学校におけるキャリア教育、③大学における障害	教育学部棟

				学生支援と合理的配慮の限界を問い直す、④読み書き障害の支援と実際、⑤障害・特別ニーズを有する子どもの平和教育実践、⑥九州における教員不足問題と特別支援学校教員養成の課題	
	12:00- 12:40	**【準備委員会特別企画】** **長崎原爆の家族証言：爆心地近くで家族4人を亡くして** 中村尚子（東京被爆二世・三世の会、長崎原爆「家族・交流証言者」）			教育学部棟11番講義室
	12:45- 13:45	**【基調講演】** **「長崎原爆と特別ニーズ教育―破壊と創造の遺産に学ぶ―」** 平田勝政（長崎大学・鎮西学院大学名誉教授）			教育学部棟11番講義室
	14:00- 16:30	**【課題研究シンポジウム】** **「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」** 企画 研究委員会・髙橋智（研究委員長・東海学院大学） 進行 髙橋智（東海学院大学）・武井哲郎（立命館大学） 企画趣旨：髙橋智（東海学院大学）：日本特別ニーズ教育学会はなぜ「戦争・核・平和」問題と特別ニーズ教育という研究課題に取り組むのか 報告①石川衣紀（長崎大学）：長崎にて原爆被爆した子どもの「いのち・生活・学習・発達」問題のリアリズム―長崎市立城山小学校「原爆学級」（1952～1958）の被爆児教育を中心に― 報告②岸博実（元京都府立盲学校）：視覚障害と戦争―盲教育史の視点から― 報告③菅達也（鎮西学院大学）：障害・特別ニーズを有する子どもの平和教育実践―長崎県の特別支援学校を事例に― 指定討論：平田勝政（長崎大学・鎮西学院大学名誉教授） 村上美奈子（立正大学）			教育学部棟11番講義室
	18:00- 20:00	懇親会（「雑魚屋 思案橋店」）			雑魚屋「思案橋店」
10月18日（日）	8:00	受付開始			教育学部棟1階
	8:30- 10:30	**【自由研究発表Ⅱ】** **【若手チャレンジ研究会Ⅱ】** **【中学生・高校生・特別支援学校中学部・高等部生招待企画】** Project for Next SNE Researcher	**【ラウンドテーブルⅡ】** 学会員企画		教育学部棟
	11:15-	学会総会・学会奨励賞授与式			教育学部

	12:30		棟11番講義室
	12:40-14:40	**【準備委員会企画シンポジウム】** **「教師不足時代における魅力ある特別支援教育教師養成の展望」** 司会・進行：田部絢子（日本大学）・田中謙（日本大学） 話題提供①：佐久間亜紀（慶應義塾大学） 教員不足時代の教育改革を問い直す―特別ニーズ教育の視点から― 話題提供②：田中謙（日本大学） 日本の特別支援教育教員養成のあり方を考える―「特別支援教育作業部会」提案の問題と課題― 話題提供③：戸ヶ崎泰子（宮崎大学） 地域の特別支援教育の教師養成に貢献する国立大学教育学部のあり方を考える 指定討論：髙橋智（東海学院大学） 高橋浩平（中野区立令和小学校）	教育学部棟11番講義室
	14:50-15:30	クロージング・セッション：副準備委員長閉会挨拶、優秀発表賞発表・授賞式、次期中間集会校挨拶、次期開催校挨拶、学会代表理事挨拶	教育学部棟11番講義室

■帰りの長崎空港までのご案内（リムジンバス、大人片道 1400 円）

16:16「長大東門前」→17:00 長崎空港着

参加費と参加申込み方法

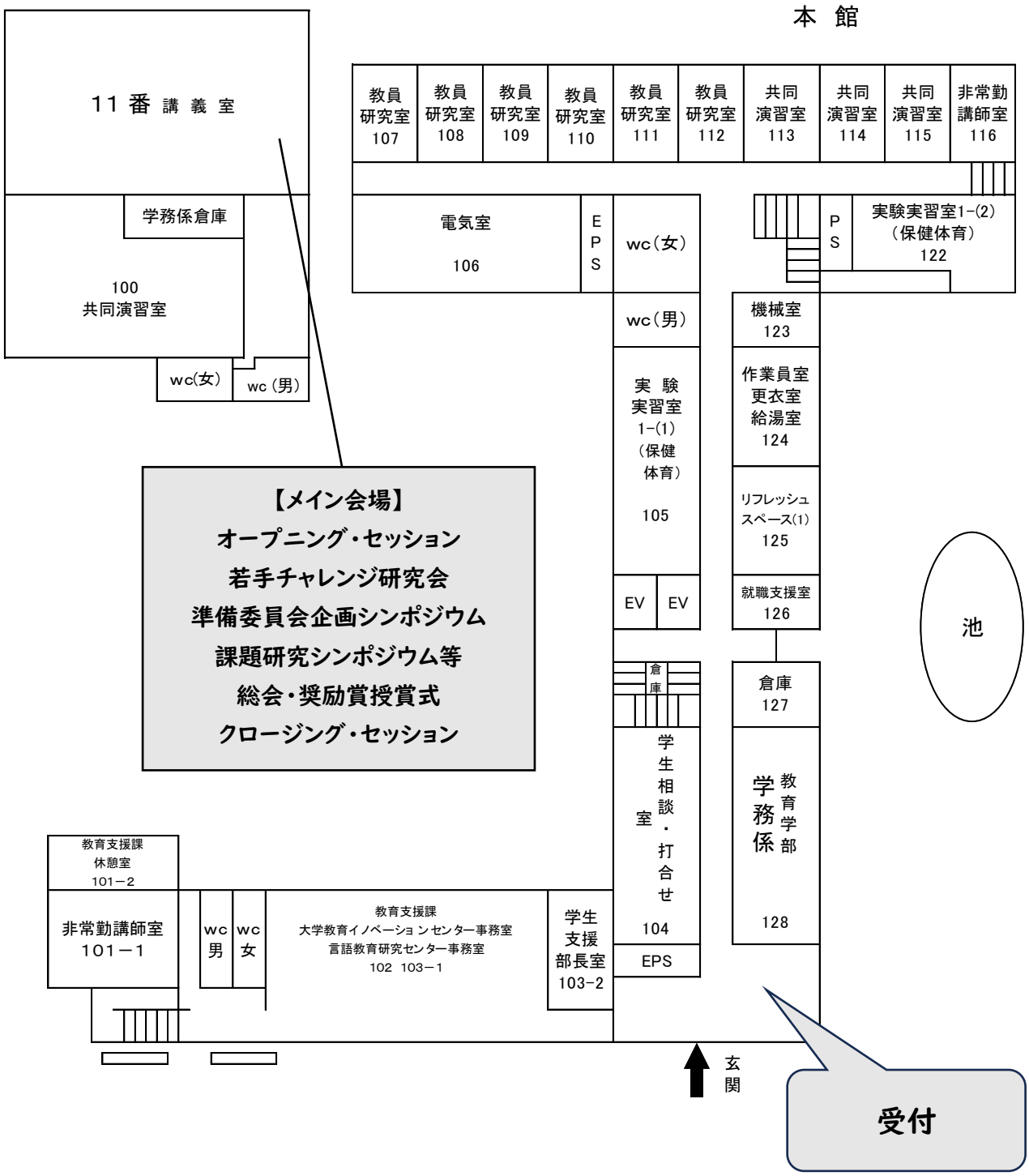
正会員	5,000 円（発表要旨集代金含む）
臨時会員（一般）	6,000 円（発表要旨集代金含む）
＊臨時会員大会 1 日のみ参加	3,000 円（発表要旨集代金含む）
＊前日プログラム（10 月 16 日）のみ参加	1,500 円（発表要旨集代金含む）
大学院学生	3,000 円（発表要旨集代金含む）
学部・専攻科学生	1,500 円（発表要旨集代金含む）
高校生以下	無料（発表要旨集代金含まず）
発表要旨集代金	1,000 円（1 冊）
懇親会	4,500 円★先着 80 名まで

下記 Peatix サイトよりお申し込み下さい。
https://sne32.peatix.com/view
★参加申し込み締め切りは ~~10 月 9 日（金）~~ 10 月 15 日（木）正午です。
※必ず事前にお申込みください。
※前日プログラム、中学生・高校生・特別支援学校中学部・高等部生招待企画の申込方法は、学会ウェブサイトをご覧ください。
https://www.sne-japan.net/research-conference/

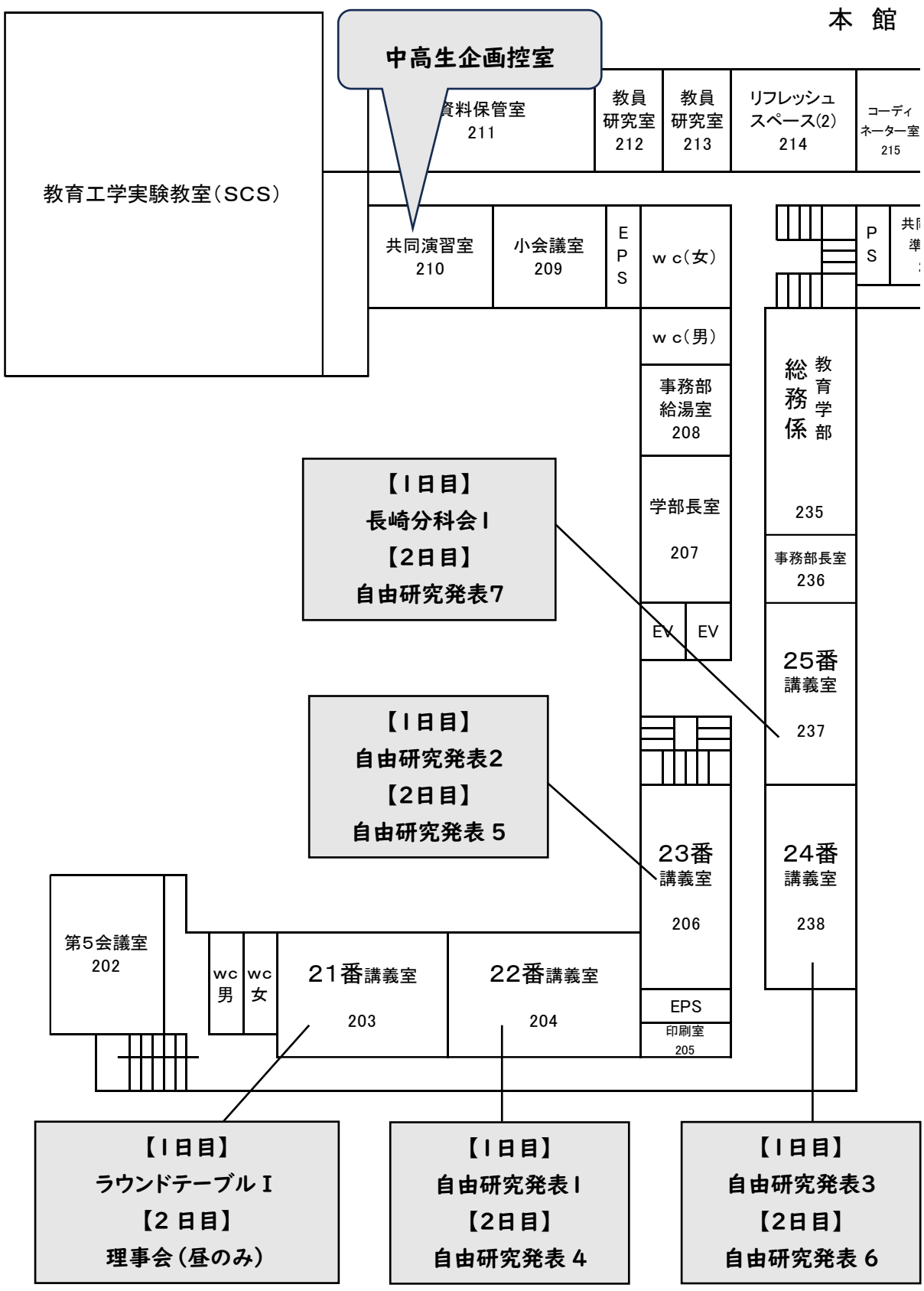
会場図


長崎大学キャンパスマップ
文教キャンパス
多文化社会学部
教育学部
薬学部
情報データ科学部
工学部
環境科学部
水産学部
1 情報データ科学部棟
2 教育学部本館
3 教育工学実験教室
4 美術技術教室
5 音楽棟
6 環境科学部本館
7 水産学部本館
8 附属薬用植物園
9 薬学部本館
10 サイエンス＆テクノラボ棟
11 工学部本館（1号館）
12 工学部実験研究棟
13 工学部2号館
14 総合教育研究棟
東通用口
東門
北門
西通用口
南門
正門
1 事務局
2 保健センター
3 核兵器廃絶研究センター（RECNA）
4 附属図書館（中央図書館）
5 放送大学長崎学習センター
6 教育実践総合研究棟
7 ICT 基盤センター
8 生協食堂
9 学生会館（生協文教店）
10 学生交流プラザ
11 学生プラザ
12 グローバル教育・学生支援棟
13 文教スカイホール
14 柏葉会館
15 総合体育館
16 総合教育研究施設A
17 文教おもやい保育園
18 中部講堂
19 CROSS Nagasaki
20 研究開発推進機構
21 ダイバーシティ推進センター棟
22 補助体育館
23 環境保全センター
24 葉國璽交流会館
25 長崎文教グローバルハウス
＼WEB サイトはこちら／
建物の写真をご覧いただけます
SNE 学会第 32回研究大会会場
教育学部棟

1 階

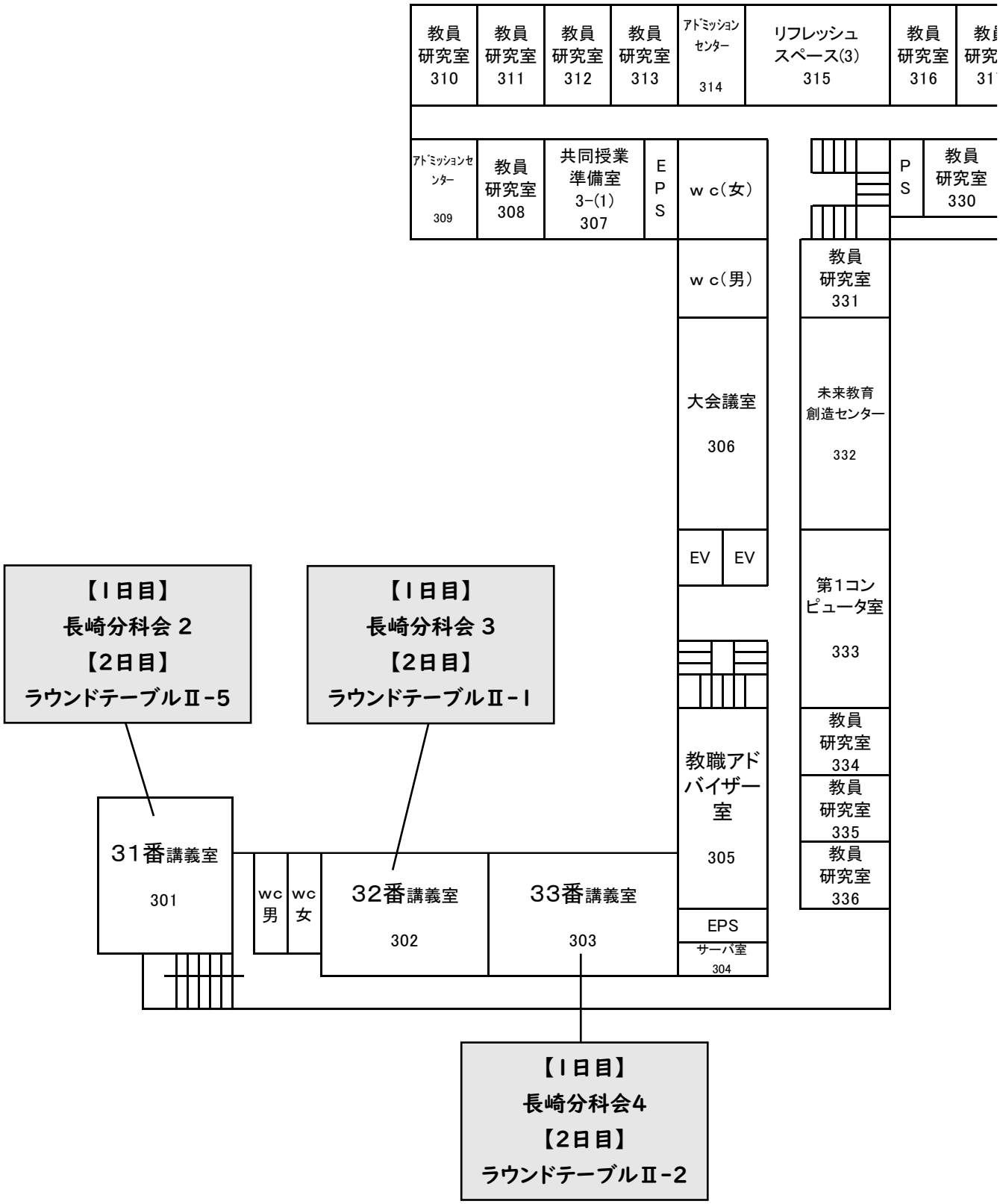

本 館
11 番 講 義 室
学務係倉庫
100
共同演習室
wc(女)
wc (男)
【メイン会場】
オープニング・セッション
若手チャレンジ研究会
準備委員会企画シンポジウム
課題研究シンポジウム等
総会・奨励賞授賞式
クロージング・セッション
教員研究室 107
教員研究室 108
教員研究室 109
教員研究室 110
教員研究室 111
教員研究室 112
共同演習室 113
共同演習室 114
共同演習室 115
非常勤講師室 116
電気室 106
EPS
wc(女)
wc(男)
実 験 実習室 1-(1) (保健体育) 105
EV
EV
倉庫
学生相談・打合せ室 104
EPS
学生支援部長室 103-2
PS
実験実習室1-(2) (保健体育) 122
機械室 123
作業員室 更衣室 給湯室 124
リフレッシュスペース(1) 125
就職支援室 126
倉庫 127
教育学部 学務係 128
池
教育支援課 休憩室 101－2
非常勤講師室 101－1
wc 男
wc 女
教育支援課
大学教育イノベーション センター事務室
言語教育研究センター事務室
102 103－1
玄関
受付

2 階

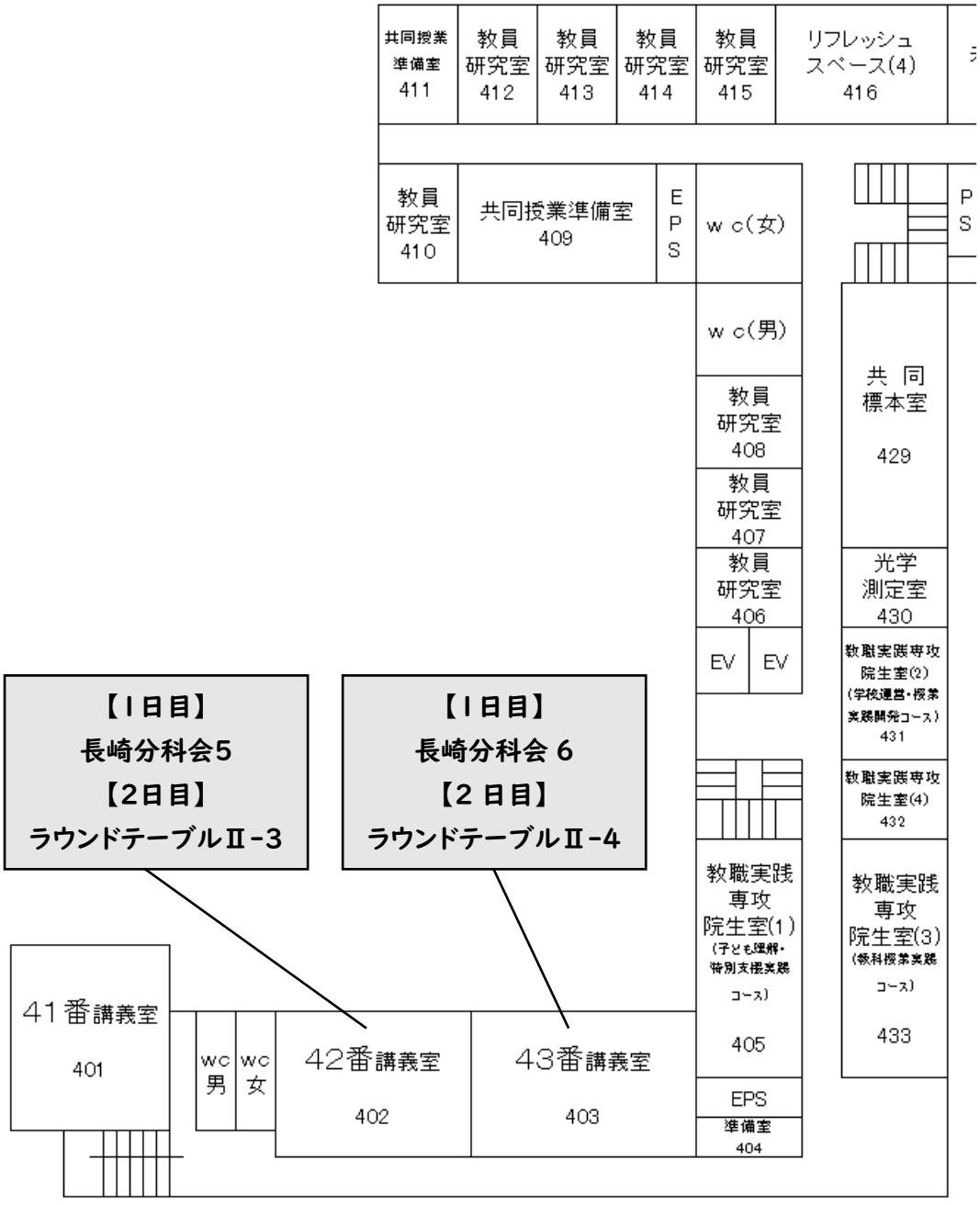

本 館
中高生企画控室
教育工学実験教室（SCS）
資料保管室
211
教員
研究室
212
教員
研究室
213
リフレッシュ
スペース(2)
214
コーディ
ネーター室
215
共同演習室
210
小会議室
209
EPS
ｗｃ(女)
ｗｃ(男)
事務部
給湯室
208
学部長室
207
EV
EV
PS
総務係
教育学部
235
事務部長室
236
25番
講義室
237
24番
講義室
238
23番
講義室
206
EPS
印刷室
205
第5会議室
202
wc
男
wc
女
21番講義室
203
22番講義室
204
【1日目】
長崎分科会1
【2日目】
自由研究発表7
【1日目】
自由研究発表2
【2日目】
自由研究発表５
【1日目】
ラウンドテーブルⅠ
【2 日目】
理事会（昼のみ）
【1日目】
自由研究発表1
【2日目】
自由研究発表４
【1日目】
自由研究発表3
【2日目】
自由研究発表６

3 階

本 館


教員研究室 310
教員研究室 311
教員研究室 312
教員研究室 313
ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 314
リフレッシュスペース(3) 315
教員研究室 316
ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 309
教員研究室 308
共同授業準備室 3-(1) 307
EPS
ｗｃ(女)
ｗｃ(男)
PS
教員研究室 330
教員研究室 331
大会議室 306
未来教育創造センター 332
EV
EV
第1コンピュータ室 333
教職アドバイザー室 305
教員研究室 334
教員研究室 335
教員研究室 336
EPS
サーバ室 304
【1日目】長崎分科会２【2日目】ラウンドテーブルⅡ-5
【1日目】長崎分科会３【2日目】ラウンドテーブルⅡ-1
31番講義室 301
wc 男
wc 女
32番講義室 302
33番講義室 303
【1日目】長崎分科会4【2日目】ラウンドテーブルⅡ-2

4 階


共同授業準備室 411
教員研究室 412
教員研究室 413
教員研究室 414
教員研究室 415
リフレッシュスペース(4) 416
教員研究室 410
共同授業準備室 409
EPS
wc(女)
wc(男)
教員研究室 408
教員研究室 407
教員研究室 406
EV
EV
共同標本室 429
光学測定室 430
教職実践専攻院生室(2)(学校運営・授業実践開発コース) 431
教職実践専攻院生室(4) 432
教職実践専攻院生室(1)(子ども理解・特別支援実践コース) 405
教職実践専攻院生室(3)(教科授業実践コース) 433
EPS
準備室 404
41番講義室 401
wc 男
wc 女
42番講義室 402
43番講義室 403
【1日目】
長崎分科会5
【2日目】
ラウンドテーブルⅡ-3
【1日目】
長崎分科会 6
【2 日目】
ラウンドテーブルⅡ-4

大会参加者へのご案内

1．受付：17 日受付は 8:30 より、18 日受付は 8:00 より行います。17 日に受付をされた方は 18 日には不要です。

2．クローク：クロークは設置しませんので、荷物は各自で管理してください。

3．17 日（土）は学食が営業しています（11:00～13:30）。18 日（日）は近隣のコンビニ・レストラン等をご利用ください。なお、各教室内で飲食は可能です。

4．駐車場：構内の駐車スペースには限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。なお、自家用車は 300 円の入構料金が必要となります。正門より入構し守衛室にて所定の手続きを行ってください。タクシーで来学された方は入構料が免除となりますので、そのまま入構できます。

5．その他：各会場において学会・研究大会記録用として担当者が写真・動画等の撮影を行う場合がございます。撮影した写真等は研究大会報告や会報（ホームページウエブ掲載）に使用することがございます。予めご了承ください。

自由研究発表・若手チャレンジ研究会・ラウンドテーブルの発表者・登壇者へのご案内

＊ 発表者・登壇者はセッション開始 20 分前までに参加受付を済ませてください。

＊ 開始前に発表に関する諸注意等の案内をいたします。

＊ 研究発表者は開始前に PC 等の動作確認を行ってください。プロジェクターとの接続端子は HDMI 端子となりますので、ご注意ください。

＊ **自由研究発表の発表時間は 1 演題ごとに発表 15 分、質疑 10 分です。**

＊ **若手チャレンジ研究会の発表時間は 1 演題ごとに発表 20 分、コメント・質疑 20 分です。**

＊ 会場ではプロジェクターの使用が可能です。パソコンを使用される場合は各自でご持参ください。

＊ 補足資料の配布が必要な場合は、事前に発表者が必要部数（各自判断）をご用意してください。会場で印刷を行うことはできません。

準備委員会シンポジウム・課題研究関係者へのご案内

＊ 関係者は開始前に打ち合わせを行います。打ち合わせ時間と会場は後日、担当者よりご案内いたします。

＊ 会場ではプロジェクターの使用が可能です。パソコンを使用される場合はご持参ください。プロジェクターとの接続端子は HDMI 端子となりますので、ご注意ください。

＊ 当日、会場で印刷を行うことはできませんので、事前にご準備ください。

プログラム詳細

2026 年 10 月 16 日（金）

10 月 16 日（金）13:00～15:05　前日プログラム

長崎市立城山小学校「原爆学級」の記憶と平和への願いを世界と未来につなぐ集い

―世界最初の被爆児救済教育は「被爆長崎の宝」―

企画・主催：日本特別ニーズ教育学会研究委員会
髙橋智（理事・研究委員会委員長／東海学院大学）
日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会準備委員会
石川衣紀（理事・準備委員会事務局長／長崎大学）
共催：長崎市立城山小学校
会場：長崎市立城山小学校体育館（長崎市城山町 23 番 1 号）
対象：城山小学校 6 年生児童、原爆学級卒業生、学会参加者・準備委員会スタッフ、城山小学校教職員・保護者等



<企画趣旨>

日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会のテーマは「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」です。その一環として前日プログラムでは、1952 年（昭和 27 年）4 月、原爆投下から 7 年後の長崎市立城山小学校に、被爆した子どもたちの健康と成長・発達を守るために設置された世界で最初の「原爆学級」を取り上げます。

爆心地からわずか 500 メートルの距離に位置する長崎市立城山小学校（旧城山国民学校）では、原爆投下によって 1,400 名以上の尊い命が失われました。戦後、米国による厳しい情報統制や、原爆傷害調査委員会（ABCC）による「観察のみで治療・救済を行わない」という過酷な状況下で、被爆児を守るために生まれたのが「原爆学級」です。原爆学級において教師たちは、教育とともに子どもたちの健康、体力、認知発達、身体発育等を継続的に観察しながら、その「いのち・生活・学習・発達」を支えました。この取り組みは、まさに「世界最初の被爆児救済教育」であり、被爆長崎が誇るべきかけがえのない「教育の宝」です。

本企画では、原爆学級の歴史的意義・価値を学ぶとともに、被爆者の高齢化により体験を直接聞く機会が減少するなか、原爆学級の卒業生をお迎えし、当時の救済教育について共に振り返ります。そして、原爆学級卒業生の語りと子どもたちとの対話を通して、核兵器の非人道性を世界へ訴えるとともに、原爆学級の歩みと記憶、平和への願いを、戦争や原爆被爆を知らない若い世代、そして世界と未来へどう受け継ぐのかを考えます。

当日は、開会挨拶・趣旨説明に続き、第1部「歴史から学ぶ『知ることから始める平和』」、第 2 部「記憶を聴く『原爆学級の教室から』（原爆学級卒業生のお話）」、第 3 部「世界と未来へつなぐ」、第 4 部「城山小からの発信」の構成で進行いたします。

<タイムスケジュール>

全体の司会進行：田部絢子（日本特別ニーズ教育学会代表理事・日本大学教授）

時刻　時間	プログラム項目	内容
13:00（5 分）	開会挨拶	石川衣紀（日本特別ニーズ教育学会理事・準備委員会事務局長／長崎大学准教授） 中尾善蔵（長崎市立城山小学校校長）
13:05（25分）	第1部：歴史から学ぶ「知ることから始める平和」	講師：髙橋智（日本特別ニーズ教育学会理事／東海学院大学客員教授・東京学芸大学名誉教授）「長崎市立城山小学校「原爆学級」と世界最初の被爆児救済教育の現代的価値―原爆学級は「被爆長崎の宝」―」
13:30（30分）	第 2 部：記憶を聴く「原爆学級の教室から」	城山小学校 6 年生児童会場入り。「原爆学級」卒業生から、当時の学校生活の様子、学びの日々、原爆学級の教育を通じて得ることができた希望や未来、今振り返っての原爆学級の意義等を直接お聞きします。
14:00（5 分）	（休憩・第 3 部会場設営）	

14:05（35分）	第3部：世界と未来へつなぐ	6年生児童、学会参加者等によるグループ対話。心に残ったこと、世界・未来に伝えるべき原爆学級の歴史的意義・価値、自分たちにできること等について語り合います。
14:40（15分）	第4部：城山小からの発信	城山小学校6年生が平和学習の取り組みを紹介し、「子らの魂よ」合唱。
14:55（10分）	総括・閉会	「原爆学級」卒業生のお二人から、児童・参加者によるグループ対話を受けて、最後にメッセージをいただきます。

＊15:05には完全終了

前日プログラム参加者へのご案内

＊10分前までに、城山小学校の体育館にご参集ください。

＊プログラムは体育館で実施しますので、上履き等をご持参ください。

＊その他の注意事項につきましては、当日までに改めて担当者から連絡をいたします。



2026年10月17日（土）

オープニング・セッション

10月17日（土）9:00～9:10　教育学部棟1階11番教室

司　会：石川衣紀（準備委員会事務局長・長崎大学教育学部）
　準備委員長開会挨拶　　鈴木保巳（長崎大学教育学部）
　教育学部副学部長挨拶　　内野成美（長崎大学教育学部副学部長）

ラウンドテーブルⅠ

10月17日（土）9:15～11:45　教育学部棟2階21番教室

子どもの「食」は発達する
―食べることに悩みや不安を抱える子どもと家族、支援者のために―



近年、子どもの「食の困難」と極端な偏食、食物アレルギー、発達障害、口腔機能発達不全症、回避・制限性食物摂取症（ARFID）、感覚情報処理障害等との関連や COVID-19 パンデミックの影響について注目されるようになってきました。

通常の食支援のみでは適応できず、特別な発達支援を必要とする子どもが全小児の1～2%程度存在すると推計されています。子どもの「食べられない」にはさまざまな要因が絡んでいます。子どもの「食べられない」に寄り添うために、子どもの「食べられない」ことの背景と発達支援について、参加者と語り合いながら一緒に考えてみたいと思います。このラウンドテーブル（車座トーク相談会）は、子ども本人・家族・保育士・教師（栄養教諭・養護教諭）・栄養士等、どなたも歓迎です。

企　画　：髙橋智（東海学院大学人間関係学部子ども発達学科）
話題提供：田部絢子（日本大学文理学部教育学科）

準備委員会企画

10 月 17 日（土）9:15～11:45
長崎特別支援教育分科会

地域に根ざした学会大会をめざし、長崎県内を中心とする研究者、教育・支援関係者による「長崎特別支援教育分科会」を同時開催します。不登校支援、特別支援学校のキャリア教育、障害学生支援、読み書き障害への支援、平和教育実践、教員不足と特別支援教育教員養成など、長崎地域の特別支援教育・特別ニーズ教育の実践と課題を取り上げます。長崎県内の関係者や市民の皆様に広く参加を呼びかけるとともに、学会員の皆様にもご参加いただき、地域と学会を結ぶ交流と議論の場とします。

長崎分科会①
特別支援学校における不登校支援の現状と課題
―行政施策・学校実践・心理的支援をつなぐ組織的支援のあり方―

教育学部棟 2 階 25 番教室

企画・司会：内野成美（長崎大学大学院教育学研究科）
話題提供：大野洋平（長崎県教育庁児童生徒支援課）
　　森典子（長崎県立虹の原特別支援学校）
指定討論：橋本郁朗（長崎県公立学校スクールカウンセラー、長崎県不登校支援協議会委員）

長崎分科会②
知的障害特別支援学校におけるキャリア教育
―自己理解を促すセルフサポートブック（SSB）の活用を通して―

教育学部棟 3 階31番教室

企画・司会：勘田陽子（長崎県立鶴南特別支援学校）
話題提供：勘田陽子（長崎県立鶴南特別支援学校）
　　川越悠都（長崎大学総務企画部人事課業務支援室スタッフ）
指定討論：田中昭二（長崎大学教育学部附属特別支援学校長）

長崎分科会③

大学における障害学生支援と合理的配慮の限界を問い直す

―特別ニーズに対して大学はどこまで応えるべきか―

教育学部棟 3 階 32 番教室

企　画：吉田ゆり(九州大学　基幹教育院　インクルージョン支援推進室)
　　Peter Bernick（長崎大学障がい学生支援室）
司　会：Peter Bernick（長崎大学障がい学生支援室）
話題提供：橋本優花里（長崎県立大学地域創造学部）
　　中村尚生（長崎国際大学人間社会学部）

長崎分科会④

読み書き障害の支援と実際

―「できない」の背景を捉え、学び方と環境を整える―

教育学部棟 3 階33番教室

企画・司会：荻布優子（長崎大学教育学部）
話題提供：篠原昂太（長崎市立三和中学校）
　　寺本夢（長崎大学教育学部 4 年）

長崎分科会⑤

障害・特別ニーズを有する子どもの平和教育実践

―長崎県の特別支援学校を事例に―

教育学部棟 4 階42番教室

企画・司会者：菅達也（鎮西学院大学総合社会学部）
話題提供　戸水瑞穂（長崎県立時和特別支援学校）
　　伊東陽一（長崎県立諫早特別支援学校）
　　浦田真護（長崎県立諫早特別支援学校）
指定討論　西村大介（長崎県教育センター）

長崎分科会⑥

九州における教員不足問題と特別支援学校教員養成の課題

教育学部棟４階43番教室

企画・司会：戸ヶ﨑泰子（宮崎大学大学院教育学研究科）

話題提供：中村貴志（福岡教育大学教育学部）

田中聡（長崎大学大学院教育学研究科・長崎県立鶴南特別支援学校）

木下裕一郎（長崎県立島原特別支援学校）



若手チャレンジ研究会Ⅰ　10月17日（土）9:15～11:45

論文デザイン検討会1（教育学部棟1階11番教室）

座長 武井哲郎（立命館大学）
松崎保弘（前くらしき作陽大学）

1．日本における「逆境的小児期体験」（ACE）経験者に対する支援と課題
高橋美芳（日本大学文理学部教育学科4年）
コメンテーター：内藤千尋（山梨大学）

2．多様な困難を有する若者の学びと成長・発達を支える中学校夜間学級の役割と課題
―教員と卒業生へのインタビュー調査から―
山口未羽（兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程2年）
コメンテーター：高石啓人（日本大学）

3．国立大学附属小学校の特別支援教育の教員意識に関する研究
―意識構造と支援の相関から―
有我紀子（東京学芸大学教職大学院教育学研究科2年）
コメンテーター：石川衣紀（長崎大学）

自由研究発表Ⅰ　10月17日(土) 9:15～11:45

自由研究発表1 (教育学部棟2階 22 番教室)

座長 髙橋智(東海学院大学)
石井智也(兵庫教育大学)

1. 草創期の奈良女高師附小における児童の特徴と個に応じた教育の実現
—「低能児」「成績優等児童」及び「特殊部落」児童の比較を中心に—
阪本彩加(奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科)

2. 制度的制約の中で就学保障を実現した実践主体の内的条件
—滋賀県養護学校退職教員 7 名の語りから—
岡田徹也(滋賀県立北大津養護学校)

3.「見えない」ことのなかにある序列化
—日本復帰前の沖縄における A さんの学校生活の聞き取りから—
眞鍋寿理子(立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程)

4. 児童福祉法制定前における精神薄弱児施設の役割と地域ニーズ
—六方学園の戦時下・占領下における歩み—
平田香奈子(広島修道大学人文学部)

5. 戦後の制度的確立期における特殊学級の教育課程論
—小学校特殊学級担任宮崎直男の教育実践を中心に—
長江清和(国立特別支援教育総合研究所)

自由研究発表Ⅰ　10月17日（土）9:15～11:45

自由研究発表2（教育学部棟2階 23番教室）

座長 吉田茂孝（大阪教育大学）
池田敦子（東海学院大学）

1．中学校特別支援教育における進路支援に関する実証的研究
―A市中学校特別支援教育担当教員への悉皆調査―
水本和也（大阪市立宮原中学校）

2．通常学級でともに学ぶ子どもの参加はいかに形づくられるのか
―時間・空間・関係の重なりに着目して―
中田崇彦（神戸大学大学院人間発達環境学研究科後期博士課程）

3．視覚障害のある女性を対象とする月経教育の指導内容と留意点の検討
―当事者の困難や工夫に関する語りに基づいて―
鶴岡尚子（東京医療保健大学和歌山看護学部）

4．インクルーシブ教育実践推進校における知的障害生徒の高校生活保障
―卒業生の語りから捉えた学習・参加・自己形成―
竹本弥生（横浜薬科大学）

5．教師が捉える児童生徒の身体特性と学習参加との関連
―学校教育における身体面への支援と専門職連携のニーズ
○中根征也（東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部）
松崎保弘（前くらしき作陽大学子ども教育学部）

自由研究発表Ⅰ　10月17日（土）9:15～11:45

自由研究発表3（教育学部棟2階 24番教室）

座長 能田昴（秋田大学）
戸田竜也（北海道教育大学教育学部釧路校）

1．ドイツにおける「インクルージョンの指標」の受容と展開に関する研究
市川博文（広島大学大学院人間社会科学研究科）

2．アメリカ特別教育の教員養成課程における保護者との協働に向けた授業実践
―「模擬 IEP 会議」の実践・研究動向に注目して―
松田華織（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

3．東京都の特別支援教室は、いかにして原則在籍期間が設定されたか
―通常の教育と特別な教育の場をめぐる地方自治体の認識に着目して―
浜えりか（愛知学泉大学短期大学部幼児教育学科）

4．特別支援教育対象児童生徒数の増加に伴う課題と対応
―市町村教育委員会の認識に基づく分析―
柴垣登（関西国際大学教育学部）

5．自閉スペクトラム症児の「心の理論」の特異性と対人コミュニケーション
戸田竜也（北海道教育大学教育学部釧路校）

準備委員会特別企画

10 月 17 日（土）12:00～12:40 教育学部棟1階11番教室

長崎原爆の家族証言「爆心地近くで家族4人を亡くして」

語り手：中村尚子（東京被爆二世・三世の会、長崎原爆「家族・交流証言者」）

長崎原爆の被爆二世であり、長崎平和推進協会の「家族証言者」として活動する中村尚子氏に、叔父・馬渡郁雄氏が残した手記をもとに、原爆による家族の被害と被爆体験について語っていただきます。

中村尚子（なかむら・たかこ）

長崎原爆の被爆二世。東京被爆二世・三世の会「おりづるの子」運営委員として活動するとともに、長崎平和推進協会の「家族証言者」として、叔父・馬渡郁雄氏が残した手記をもとに、爆心地近くで家族 4 人を失った体験を語り継いでいる。被爆者家族の体験を通して、原爆被害の実相と平和への願いを次世代に伝える活動に取り組んでいる。



中村　尚子（なかむら たかこ）
被爆者：馬渡 郁雄（叔父）

講話内容 >>

爆心地近くで家族4人を亡くした叔父、馬渡郁雄（被爆当時20歳）の8月9日から14日までの被爆体験を語る。
郁雄は、爆心地から3.3㎞の勤務先で被爆。翌10日早朝、被爆直後の町を通って山里町にあった自宅（爆心地から230m）へと急いだ。自宅周辺は人も建物も完全に焼け、平らになっていた。郁雄の父、馬渡久吉とは久吉の勤務先の山里国民学校（爆心地から700m）で再会し、郁雄は救援に奔走した。13日、久吉は息を引き取る。母親、妹、弟の確かな行方は不明。

（平和推進協会ウェブサイトより）

基調講演

10 月 17 日（土） 12:45～13:45 教育学部棟 1 階11番教室

長崎原爆と特別ニーズ教育

―破壊と創造の遺産に学ぶ―

平田勝政（長崎大学・鎮西学院大学名誉教授）



課題研究シンポジウムと連動する形で、長崎県の盲・聾唖教育や開成学園における戦争・原爆の影響と被害の実相をたどるとともに、長崎原爆で長男を亡くした近藤益雄の知的障害教育実践における平和的意義について、「戦争・核・平和」と特別ニーズ教育の視点からお話しいただきます。



平田勝政（ひらた・かつまさ）

1954 年岡山県生まれ。徳島大学教育学部卒業後、東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程・博士課程に学ぶ。1988 年に長崎大学教育学部に着任し、同大学教授等を経て 2019 年に定年退職。その後、長崎ウエスレヤン大学（現・鎮西学院大学）教授、学部長兼学長補佐等を務めた。現在、長崎大学名誉教授・鎮西学院大学名誉教授。

障害児教育史・障害者福祉史を中心に、優生学と障害者教育・福祉、ハンセン病問題、原爆と障害者等について研究。著書に、茂木俊彦・髙橋智との共著『わが国における「精神薄弱」概念の歴史的研究』（多賀出版）、編著『長崎・あの日を忘れない―原爆を体験した目や耳の不自由な人たちの証言―』（長崎文献社）等。

（https://www.nagasaki-np.co.jp/kijis/?kijiid=512793355408327777）

課題研究シンポジウム

10 月 17 日（土）14:00～16:30 教育学部棟 1 階11 番教室

「戦争・核・平和」と特別ニーズ教育

＜シンポジスト・指定討論者＞

企画　研究委員会・髙橋智（研究委員長・東海学院大学）

進行　髙橋智（東海学院大学）、武井哲郎（立命館大学）

企画趣旨　髙橋智（東海学院大学）：
日本特別ニーズ教育学会はなぜ「戦争・核・平和」問題と特別ニーズ教育という研究課題に取り組むのか

報告①　石川衣紀（長崎大学）：
長崎にて原爆被爆した子どもの「いのち・生活・学習・発達」問題のリアリズム
―長崎市立城山小学校「原爆学級」（1952～1958）の被爆児教育を中心に―

報告②　岸博実（元京都府立盲学校）：
視覚障害と戦争―盲教育史の視点から―

報告③　菅達也（鎮西学院大学）：
障害・特別ニーズを有する子どもの平和教育実践
―長崎県の特別支援学校を事例に―

指定討論　平田勝政（長崎大学・鎮西学院大学名誉教授）
村上美奈子（立正大学）

＜企画趣旨＞

ロシアによるウクライナ侵攻、ガザやイランにおける人道危機に象徴される現代の戦争・武力紛争は、子どもの「いのち・生活・学習・発達」に深刻な影響を及ぼしている。とりわけ障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもにとって、医療・教育・療育・福祉等の支援体制の崩壊は、その影響を一層深刻かつ長期的なものとする。また、核兵器・核戦争は、子どもの生存・発達、人生・未来への希望に不可逆的な影響を及ぼすものであり、教育学にとっても根本的な課題である。

この問題を考えるうえで重要な手がかりとなるのが、長田新編（1951）『原爆の子―広島の少年少女のうったえ―』である。長田は、原爆によって家族を失い、疾病・障害・貧困・差別等の困難を抱えながら生きる子どもの声を、「平和のための教育」を構築するための原点として社会に提示した。しかし、戦争被災・原爆被爆した子どもの生活・発達困難のリアリズムに立脚して戦後教育・平和教育を構築するという課題は、その後の特殊教育・障害児教育・特別支援教育研究において十分に継承・深化されてこなかった。

こうした問題意識のもと、本学会が「戦争・核・平和」問題と特別ニーズ教育を課題研究として設定する主な背景・理由は、以下の三点にある。

① 戦争・武力紛争や核実験で最も深刻な影響を受ける子どもたちの発達教育的救済

障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもにとって、戦争・武力紛争による生活環境の激変や医療・教育・療育・福祉等のインフラの破壊は、生命や心身の発達に深刻な影響を及ぼす。こうした子どもの「いのち・生活・学習・発達」の権利が侵害されている現実に対して、その実態とニーズを明らかにし、教育・発達支援のあり方を検討することは、特別ニーズ教育研究に求められる重要な課題である。

② これまでほとんど未着手であった研究領域の開拓

従来の特殊教育・障害児教育・特別支援教育・特別ニーズ教育研究において、戦争・武力紛争や核被害が子どもに与える影響と、それに対する教育・発達支援についてはほとんど検討されてこなかった。この研究上の空白を埋め、「戦争・核・平和」問題と特別ニーズ教育研究を新たに開拓することが求められている。

③ 被爆地・長崎での第 32 回研究大会開催と国際的な平和への機運

日本被団協のノーベル平和賞受賞など、被爆の実相の継承と核兵器廃絶を求める国際的な機運が高まるなか、2026 年に長崎大学・鎮西学院大学の共催により第 32 回研究大会を被爆地・長崎で開催することは、本学会がこの問題を問い直すうえで特別な意味をもつ。

以上を踏まえ、本学会研究委員会では、「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」を課題研究として設定し、『SNE ジャーナル』第 32 巻における課題研究特集論文、2026 年度中間集会および第 32 回研究大会における課題研究シンポジウムを相互に関連づけながら、継続的に研究・討議を進めてきた

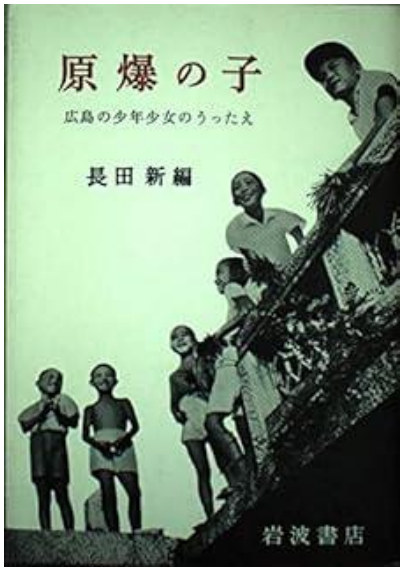
本シンポジウムでは、戦争・武力紛争や核被害を国家間の政治・軍事・安全保障の問題としてのみ捉えるのではなく、そこで生きる子ども、とりわけ障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもの「いのち・生活・学習・発達」の権利とリアリズムを出発点として検討する。長田新『原爆の子』が提起した問題を手がかりに、戦時下の盲教育、長崎市立城山小学校「原爆学級」、長崎県内の特別支援学校における平和教育実践を通して、「戦争・核・平和」問題と特別ニーズ教育研究の課題と可能性を明らかにする。

75 年前に長田新が提起した問題を改めて引き受け、本課題研究を、本学会における「戦争・核・平和」問題と特別ニーズ教育研究の出発点としたい。



原爆投下後の長崎市立城山小学校（当時は城山国民学校）

（https://nagasakipeace.jp/search/about_abm/gallery/shiroyama.html）



長田新編『原爆の子―広島の少年少女のうったえ―』



懇親会

10 月 17 日（土）18:00～20:00

「雑魚屋　思案橋店」

(https://akr882732831 9.owst.jp/)

大会初日の 17 日（土）の夕刻には懇親会を開催します。会場の関係で先着 80 名限定です。お早めの申し込みをお願い申し上げます。キャンセルはできませんので、当日不参加の場合も参加費をいただきます。

会　場：雑魚屋　思案橋店（長崎県長崎市本石灰町5−10　ベルーガビル）
アクセス：長崎大学正門近くの「長崎大学」電停から、長崎電気軌道　1　系統「崇福寺」行きに乗車し、「思案橋」電停で下車。思案橋電停から店舗まで徒歩約 1～2 分です。
参加費：4,500 円　事前予約のみ／peatix のチケット購入でのお支払いとなります。





2026 年 10 月 18 日（日）

若手チャレンジ研究会Ⅱ　10 月 18 日（日）8:30～10:30

論文デザイン検討会2（教育学部棟 1 階 11 番教室）

座長：石川衣紀（長崎大学）
鈴木保巳（長崎大学）

1．知的障害者が参加するレクリエーション活動への競争要素の導入
―保護者・運営スタッフの認識及び当事者の様子の分析―
坂本明日可（岡山大学教育学部4年生）
コメンテーター：中村晋（帝京大学）

2．自閉スペクトラム症児者の感覚体験に対する共感および理解に及ぼす VR 教育の効果
石田優真（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修士課程2年）
コメンテーター：鈴木保巳（長崎大学）

3．病弱教育対象児の変遷
―全国病弱教育連盟機関誌のテキスト分析から―
児玉真吾（立命館大学大学院社会学研究科博士前期課程 2 年）
コメンテーター：村上理恵（広島大学）

自由研究発表Ⅱ　10 月 18 日（日） 8:30～10:30

自由研究発表4 （教育学部棟 2 階22 番教室）

座長：髙橋智（東海学院大学）
長谷川正人（一般社団法人未来への懸け橋）

1．教育現場での実践に有効なビジョントレーニング法の開発
―学生が考案した方法に着目して―
阪本美江（芦屋大学臨床教育学部/大学院教育学研究科）

2．専門学校における発達障害学生の在籍および支援の実態
―合理的配慮の提供の義務化を踏まえて―
齊藤彩（お茶の水女子大学基幹研究院）

3．　アイルランドにおける知的障害者の高等教育・大学教育保障の実際と課題（その1）
―アイルランド政府「継続教育・高等教育・研究・イノベーション・科学省」、ダブリン工科大学の訪問調査（2026 年 3 月）から―
〇髙橋智（東海学院大学）
石井智也（兵庫教育大学）
能田昴（秋田大学）
田部絢子（日本大学）
内藤千尋（山梨大学）
石川衣紀（長崎大学）
池田敦子（東海学院大学）

4．アイルランドにおける知的障害者の高等教育・大学教育保障の実際と課題（その2）
―ダブリン大学トリニティ・カレッジ「知的障害者トリニティ・センター（TCPID）」の訪問調査（2026 年 3 月）から―
〇石井智也（兵庫教育大学）
能田昴（秋田大学）
内藤千尋（山梨大学）
石川衣紀（長崎大学）
田部絢子（日本大学）
池田敦子（東海学院大学）
髙橋智（東海学院大学）

自由研究発表Ⅱ　10 月 18 日（日） 8:30～10:30

自由研究発表5 （教育学部棟 2 階23 番教室）

座長：田部絢子（日本大学）
原田琢也（金城学院大学）

1．インクルーシブ教育を担う教員の育成について
―小学校校長職 11 年の実践を通して―
高橋浩平（中野区立令和小学校）

2．「特別な教育的ニーズ」をどう捉えるか
―クイーンズランド州にみる「多元的・多層的」インクルーシブ教育―
○原田琢也（金城学院大学人間科学部）
竹内慶至（名古屋外国語大学現代国際学部）
新谷龍太朗（同志社女子大学現代社会学部）
堤英俊（都留文科大学教養学部）
伊藤駿（京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構）
濱元伸彦（関西学院大学教育学部）

3．英国における子ども・若者の「回避・制限性食物摂取障害（ARFID）」問題の動向と支援の実際
―「イヴェリーナ・ロンドンこども病院複合摂食サービス部門」の訪問調査（2025 年 11 月）から―
○田部絢子（日本大学文理学部教育学科）
髙橋智（東海学院大学人間関係学部子ども発達学科）

4．英国における子どもの「Long COVID（COVID-19 罹患後症状）」の動向
―英国政府独立機関「英国子どもコミッショナー」と当事者組織「Long Covid Kids」の訪問調査（2026 年 3 月）から―
○能田昴（秋田大学）
田部絢子（日本大学）
石井智也（兵庫教育大学）
石川衣紀（長崎大学）
内藤千尋（山梨大学）
池田敦子（東海学院大学）
髙橋智（東海学院大学）

自由研究発表Ⅱ　10 月 18 日（日） 8:30～10:30

自由研究発表6 （教育学部棟 2 階24 番教室）

座長：内藤千尋（山梨大学）
千賀愛（北海道教育大学）

1．外国人散在地域における日本語指導教室の役割と実践に関する研究
―日本語指導教室を担当している指導者へのインタビューから―
〇安蒜ひなた（つくば市立沼崎小学校）
新井英靖(茨城大学教育学部)

2．ドイツ・ベルリン市における風車の丘基礎学校のインクルーシブなスポーツ授業とカリキュラムの実際
〇千賀愛（北海道教育大学）
安井友康（北海道教育大学）

3．居場所のない子ども・若者（いわゆる「トー横キッズ」）の抱える発達困難の実態と発達支援の研究
―少年院の面接調査から―
〇内藤千尋（山梨大学大学院総合研究部教育学域）
田部絢子（日本大学文理学部）
髙橋智（東海学院大学人間関係学部）

自由研究発表Ⅱ　10 月 18 日（日） 8:30～10:30

自由研究発表7 （教育学部棟 2 階25 番教室）

座長：武井哲郎（立命館大学）
高石啓人（日本大学）

1．転籍はいかにして「子どものため」となるのか
―SSW の語りにみる学校組織の論理―
庭山風人（札幌市立開成小学校）

2．児童発達支援から放課後等デイサービスへの接続とニーズ
―保護者アンケート調査に基づく探索的研究―
伊井勇（新潟県立大学人間生活学部）

3．福祉政策としてのフリースクールに備わる意義と課題
―地域における不登校児童生徒への支援という視点から―
武井哲郎（立命館大学経済学部）

4．壮年当事者のピアサポート活動から見えてきたもの
―壮年当事者の振り返りを通して―
森定薫（ピア・サポートセンターおかやま）

ラウンドテーブルⅡ　10 月 18 日（日） 8:30～10:30

ラウンドテーブルⅡ-1 （教育学部棟 3 階 32 番教室）

障害青年の学校から社会への移行期の生涯学習支援の取り組み

3人の発表者の共通点は、全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会（以下、全専研という）のメンバーであることである。全専研は、「特別なニーズ教育を必要とする青年達の専攻科、大学や生涯にわたる学習・教育の充実、発展をめざす」ことを目的に、今から約 20 年前の 2004 年 11 月に発足した。毎年、実践研修講座と研究集会を開催してきている。特別支援学校高等部だけでは、短い。もっとゆっくりと学び合う中で青年期を充実させたいという目的で取り組んできている。しかし、それぞれが所属する実践の場の設置形態は、学校法人、社会福祉法人、NPO 法人と異なり、また、それぞれの取り組み方や目指す方向性に違いがある。このラウンドテーブルでは、各実践報告を通して、障がい者の生涯にわたる学びと成長に取り組む各実践的特徴や共通する課題を明らかにするとともに、今後のわが国における特別支援教育や障害福祉など教育・福祉の制度改革に向けた課題を話しあう。

企画・司会　田中良三（愛知県立大学名誉教授）
話題提供　山下達也（学校法人聖母の家学園特別支援学校）
　　西園健三（社会福祉法人麦の芽ユースコラ鹿児島）
　　加藤哲（NPO 法人見晴台学園大学）
指定討論　長岡甫（名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程）

ラウンドテーブルⅡ-2 （教育学部棟 3 階33 番教室）

学校教育に「身体」の視点をどう位置づけるか
―教師と理学療法士の協働による学習・活動参加支援を考える―

学校教育における「身体」を切り口として、児童生徒の姿勢や運動、感覚特性等を学習・活動参加との関係から捉える視点について検討する。教師調査と知的障害のある児童生徒への運動指導事例をもとに、教師と理学療法士がそれぞれの専門性を持ち寄り、児童生徒の学習・活動参加を支えるための協働のあり方について議論する。

企　画　中根征也（東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部）
　　松崎保弘（前くらしき作陽大学 子ども教育学部）
司　会　中根征也（東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部）
話題提供　松崎保弘（前くらしき作陽大学 子ども教育学部）
　　中根征也（東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部）
指定討論　田中敦士（札幌学院大学人文学部）

ラウンドテーブルⅡ　10 月 18 日（日） 8:30～10:30

ラウンドテーブルⅡ-3 （教育学部棟 4 階 42 番教室）

発達障害と不登校
―自閉スペクトラム症児についての検討―

本ラウンドテーブルでは、通常の学級に在籍する自閉スペクトラム症児に焦点をあて、不登校に至る背景や要因、支援策等について話題提供及び意見交換を行う。

企　　画　　楠凡之(北九州市立大学非常勤)・戸田竜也(北海道教育大学釧路校)
司　　会　　戸田竜也(北海道教育大学釧路校)
話題提供者　戸田竜也(北海道教育大学釧路校)
　　楠凡之(北九州市立大学非常勤)
　　大石柳(福岡県立ひびき高等学校)
指定討論者　伊藤修毅(日本福祉大学)

ラウンドテーブルⅡ-4 （教育学部棟 4 階 43 番教室）

そもそも、実践研究とはなにか
―特別支援教育における実践研究の諸課題―

障害児を対象とした教育実践を進めるうえで、「実践研究」は，重要な位置づけを有する。日々の実践の営みに対して、直接的もしくは間接的に寄与するからである。もちろん，その寄与のありかたについては、様々である。日々の実践の効果を実証的に明らかにするという側面もあれば、実践研究を通して、新たな子ども理解の視座を提起することもあるだろう。同じ障害でも、子どもによって、その状態が大きく異なることを踏まえれば、特別支援教育における実践研究の重要性は論をまたない。そこで、本ラウンドテーブルでは、実践研究のありかたについて議論を行う。

企　　画　　赤木和重(神戸大学)・加茂勇(大阪青山大学)・吉田茂孝（大阪教育大学)
司　　会　　加茂勇(大阪青山大学)
話題提供者　石垣雅也(北海道教育大学釧路校)
　　垂髪あかり（鳴門教育大学)
　　吉田茂孝（大阪教育大学)
指定討論　　片岡美華（鹿児島大学)
　　窪島務（SKC キッズカレッジ)

ラウンドテーブルⅡ　10 月 18 日（日） 8:30～10:30

ラウンドテーブルⅡ-5 （教育学部棟 3 階 31 番教室）

特別ニーズ教育を担う教職員の養成を考える
―特別支援学校教員養成課程在籍当事者の立場から―

本ラウンドテーブルは、特別支援学校教員養成課程に在籍する学生自身の語りを手がかりに、今後の特別ニーズ教育を担う教職員の養成のあり方について意見交換する場を設けることを目的とする。

企　　画　　田中 謙(日本大学文理学部)
司　　会　　田中 謙(日本大学文理学部)
話題提供者　国公私立大学特別支援学校教員養成課程在学の学生（A 大学・B 大学・C 大学）
指定討論者　髙橋幸子（國學院大學）
　　高橋彩（岡山大学）

学会総会・学会奨励賞授賞式
10 月18 日（日）11:15～12:30 教育学部棟 1 階11番教室

学会運営に関わる各種の報告・審議のほか、学会奨励賞授賞式を行います。学会員の皆様はご参集ください。

【学会奨励賞授賞式】
授賞者：2026 年度授賞者 中村晋氏
授賞対象論文： 中村晋・米田宏樹「知的障害のある生徒のメタ認知的活動を支援する教師の働きかけの特徴―国語科の授業における教室談話分析―」『SNE ジャーナル』第 31 巻 1 号、2025 年 10 月所収

準備委員会企画シンポジウム

10月18日（日）12:40～14:40 教育学部棟1階11番教室

「教師不足時代における魅力ある特別支援教育教師養成の展望」

<シンポジスト・指定討論者>

司会・進行：田部絢子（日本大学）・田中謙（日本大学）

話題提供①：佐久間亜紀（慶應義塾大学教職課程センター）：
教員不足時代の教育改革を問い直す―特別ニーズ教育の視点から―

話題提供②：田中謙（日本大学文理学部）：
日本の特別支援教育教員養成のあり方を考える―「特別支援教育作業部会」提案の問題と課題―

話題提供③：戸ヶ崎泰子（宮崎大学）：
地域の特別支援教育の教師養成に貢献する国立大学教育学部のあり方を考える

指定討論：髙橋智（東海学院大学）
高橋浩平（中野区立令和小学校）

<企画趣旨>

現在、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会では「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策に関する論点整理」を進めており、教師養成と教育課程（学習指導要領）の改革の一体化や教員免許制度のあり方についての検討等が行われている。

しかし、現在の議論においては懸念される課題が依然として多く残されている。例えば、教員養成部会（「教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ」）の提案では教職関係の履修単位数は事実上大幅に削減され、新たに「強み専門性に係る内容の学修」が組み込まれているが、なぜ単位数や科目構造を変えても質が下がらないのか、あるいはどのように質を担保するのかということについて、十分な根拠に基づいて説明されていない。

また、今回の制度改革のキーワードともなっている「強み専門性」（何とも奇怪な用語である）については、免許にも付記することが可能ともされているが、一方で実際の採用・配置・校務分掌・研修・昇進にどのように反映されるのかは十分に示されておらず、採用試験でどう評価するのか、学校配置でどう活用するのか等については議論が中途の段階にあるといえる。

さらに、「教職課程認定基準の改正」では、「「教職に関する科目」の3割を上限に、単位互換科目を大学自ら開設の科目とみなすことが可能」であることが明記されているが、単位互換に伴う教職課程の大学間連携が、ひいては教育学部・教育学科等を有する大学の統廃合の議論にもなりかねないような危険性を内包している。

このような動きと連動して「特別支援学校の教職課程の再構造化」の議論を展開してきたのが、教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループのもとに設置された「特別支援教育作業部会」である。特別支援教育作業部会の提案では特別支援学校教諭免許状の修得単位数の大幅削減が提起され、それに対して

複数領域取得や実践的専門性の担保への懸念が指摘されている。また科目区分の大幅な見直しについても提起されているが、各大学の既存科目がどのように位置づくのか、課程認定への影響については議論が深められないままとなっており、今後、特別支援学校教員養成課程を有する各大学において、どのような対応が求められていくのかについて議論が不可欠である。

さらに、「教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ」で提案されている「強み専門性」については、特別支援教育科目を履修して充てる方向性も打ち出されているが、特別支援教育の一部科目だけを履修して「強み専門性」として示せるようになると、特別支援学校教員免許取得の意義が必然的に低下・弱体化するという当然な懸念も指摘されている。

さて本シンポジウムでは、現在進められている国の教員養成改革の議論を踏まえながら、特別支援教育の教師養成のあり方について検討するものである。とくに、教師不足の厳しい時代であっても、教師養成を通して地域の社会的基盤をしっかりと支えていく教育系大学・学部・学科の新たな意義・役割をどのように打ち出していくのか、そのなかで魅力ある特別支援教育の教師養成をどのように構想していくのかについて議論を行っていく。

特別ニーズ教育の視座から、学会員の衆知を集めて、今後の教師養成のあり方や可能性について展望し、問題提起をしていく機会としたい。

クロージング・セッション

10 月 18日（日） 14:50～15:30　教育学部棟11番教室

司　会：石川　衣紀（長崎大学教育学部）

副準備委員長閉会挨拶	菅達也（鎮西学院大学総合社会学部）
優秀発表賞発表・授賞式	髙橋智（東海学院大学人間関係学部・研究委員長）
次期中間集会校挨拶	丸山啓史（京都教育大学）
次期開催校挨拶	髙橋智（東海学院大学人間関係学部・第 33 回研究大会準備委員長）
学会代表理事挨拶	田部絢子（日本大学文理学部）

中学生・特別支援学校中学部生、高校生・特別支援学校高等部生招待企画
「Project for Next SNE Researcher」
10 月 17 日（土）・18 日（日）

【17 日（土）のプログラム】

8:30　受付開始、8:45-9:00 代表理事からのあいさつ、参加オリエンテーション
9:00-9:15　オープニング・セッション
9:15-11:45　「自由研究発表」（学会員の研究発表）、「若手チャレンジ研究会」（大学生、大学院生の研究発表）を自由に聞いてもらいます。
11:45-12:45　大学生とのランチ会：大学生とお昼を食べながらいっしょに交流しましょう。
12:45-13:45　【基調講演】「長崎原爆と特別ニーズ教育―破壊と創造の遺産に学ぶ―」平田勝政（長崎大学・鎮西学院大学名誉教授）
14:00-16:30　【課題研究シンポジウム】「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」

【18 日（日）のプログラム】

8:15-8:30　参加オリエンテーション
8:30-10:30　「自由研究発表」（学会員の研究発表）、「若手チャレンジ研究会」（大学生、大学院生の研究発表）を自由に聞いてもらいます。
10:30-11:15　SNE ワークショップ（予定）　※当日の参加申込数によって変更があります。
11:15-12:40　大学生とのランチ会：大学生とお昼を食べながらいっしょに交流しましょう。
12:40-14:40　【準備委員会企画シンポジウム】「教師不足時代における魅力ある特別支援教育教師養成の展望」
14:50-15:30　クロージング・セッション

【生徒さんの参加について】

参加費：無料（引率の保護者も無料）。受付で参加証をお渡しします。
申込締切は 2026 年 10 月 9 日（金）です。下の QR コードから事前にお申し込みください。

終了後にアンケートへのご協力をお願いします。
昼食（お弁当）をご持参ください。
交通費・宿泊費等は参加者側のご負担となります。
1 日目のみ、2 日目のみ、午前のみ、午後のみなど、部分参加も可能です。

日本特別ニーズ教育学会第32回研究大会準備委員会

準備委員長　　鈴木保巳（長崎大学教育学部）
副準備委員長　　菅 達也（鎮西学院大学総合社会学部）
事務局長　　石川衣紀（長崎大学教育学部）
大会開催有志　　木永勝也（長崎総合科学大学）
大会開催有志　　中村桂子（長崎大学核兵器廃絶研究センター）
大会開催有志　　山口 響（長崎大学核兵器廃絶研究センター）
大会開催有志　　樫本由貴（長崎大学教育学部）



大会協力委員：髙橋 智（東海学院大学人間関係学部）
田部絢子（日本大学文理学部）
内藤千尋（山梨大学大学院総合研究部教育学域）
能田 昴（秋田大学教育文化学部）
池田敦子（東海学院大学人間関係学部）
石井智也（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）

学生スタッフ：岩波小遥（長崎大学教育学部４年）
海老原綾乃（長崎大学教育学部３年）
木下瑠望（長崎大学教育学部３年）
新宮美桜（長崎大学教育学部３年）
水口華花（長崎大学教育学部３年）
田之上明暖（長崎大学教育学部２年）
増田ひなた（長崎大学教育学部１年）
岩永凛花（長崎大学教育学部１年）
高橋美芳（日本大学文理学部教育学科４年）
長田龍峙（日本大学文理学部教育学科４年）



後 援：長崎県教育委員会／一般社団法人長崎原爆被災者協議会／長崎県被爆者手帳友の会／
長崎県平和運動センター 被爆者連絡協議会／長崎県手をつなぐ育成会／長崎市手をつなぐ育成会

協 賛　　株式会社 風間書房
図書出版 文理閣
医療法人瞭彩会 さかもと眼科

本研究大会に関する問い合わせ先

日本特別ニーズ教育学会第32回研究大会準備委員会事務局
長崎大学教育学部 石川衣紀研究室
〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14
taikai@sne-japan.net